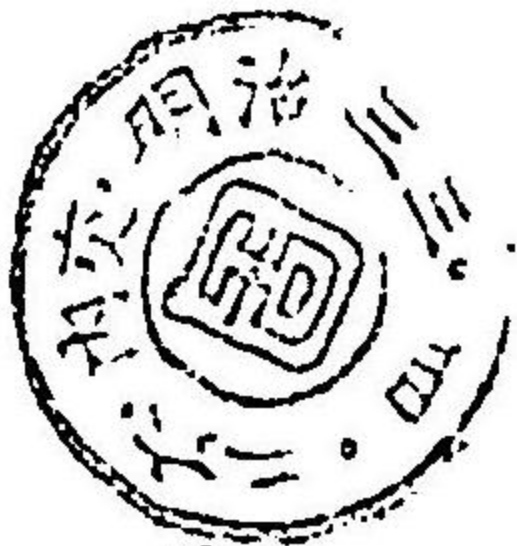


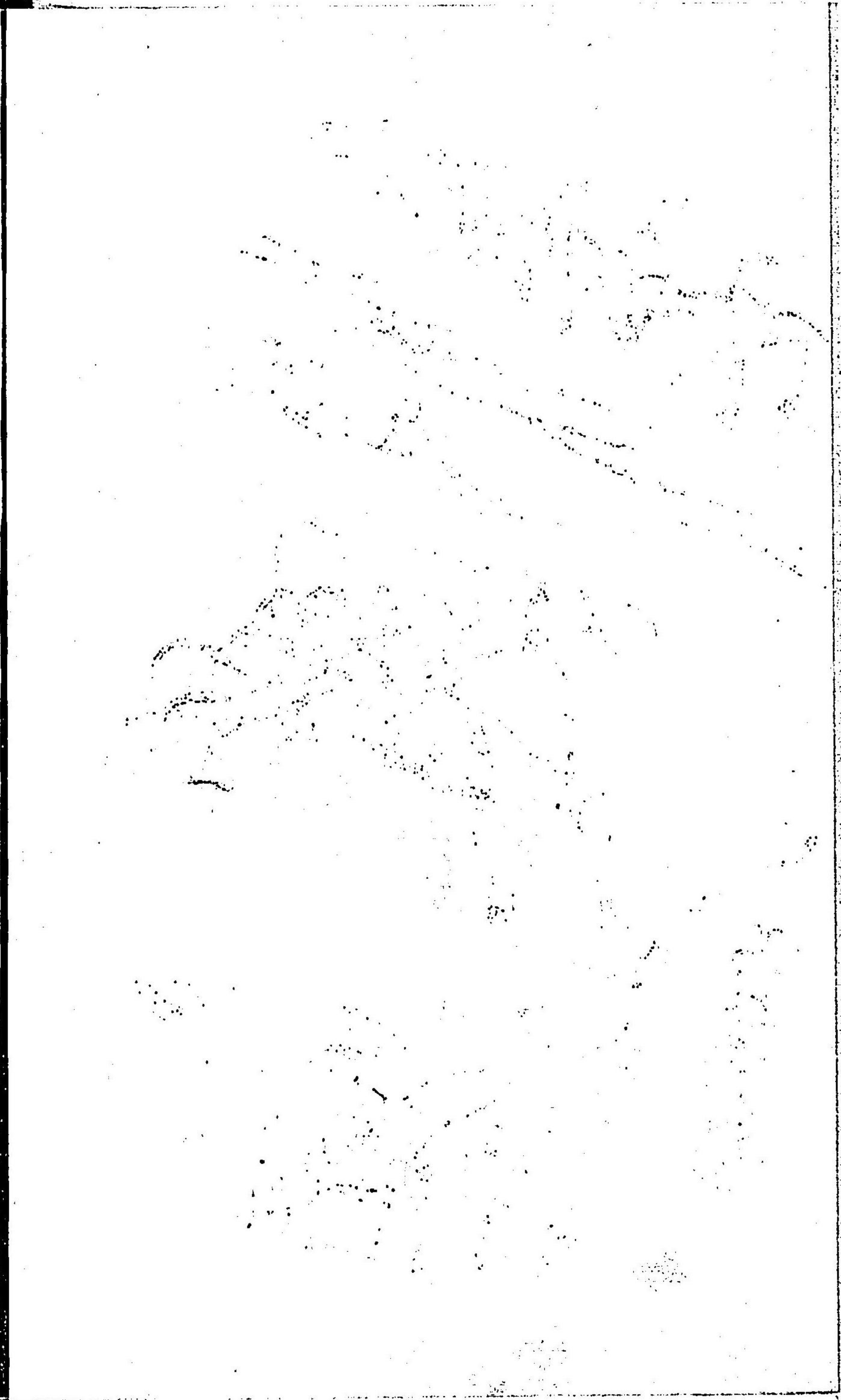
82-207



梅舟亭  
印







可  
海  
海

海

海

海

海

海



## 遊清雜記之序

友人間二樓主人石黑君去年盛夏ノ候暑中休暇ノ間ヲ以テ萬里ノ長風ニ駕シ遠ク清韓ノ二國ニ歷遊シ至ル處其商工眼ヲ以テ風俗人情地理物産ノ景況及ヒ旅館舟車ノ便否ヨリ併テ山水之景勝ヲ視察シ而シテ其目睹耳聞スル所ノ者委ク記シテ之レヲ日出新聞紙上ニ掲載セシムルコト十數回ヲ重テタリ今ヤ諸同人ノ勸誘ニ因リ纂錄シテ一小冊子ニ刷出シ弘ク之ヲ知友ニ頒タント欲シ序ヲ予ニ問フ予ヤ足未タ清韓ノ地ヲ踏マズ是ヲ以テ漫ニ其記事ノ是非ヲ評スルコト能ハズ



ト雖モ其行文ノ簡明ニシテ着眼ノ綿密ナル自ラ讀者  
 ナシテ同ジク與ニ其地ニ遊ブノ感アラシムル者アリ  
 慥ニ後ノ彼國ニ遊フ者ノ爲ニ有益ナル道案内記タル  
 ナ失ハザルヲ信ズルナリ今ヤ清韓兩國ハ世界列國ノ  
 注視スル所トナリ通商貿易ニ殖産工業ニ將タ外交政  
 略ニ年々權力競争ノ熱度ヲ騰昂シ來リ日夜畫策經營  
 スル所アルニ拘ハラズ一葦帶水ヲ隔ツル吾邦人士ノ  
 却テ冷淡ニシテ之ヲ雲烟過眼視シ徒ニ蝸牛角上ノ黨  
 争ニ齷齪シ眼ヲ東洋ノ局面ニ注クモノ尠ナキハ識者  
 ノ嘆惜スル所ロナルニ拘ハラズ君ヤ即チ一介ノ書生

ヲ以テ而モ此遊歷ヲ爲シ且ツ此記行ヲ著ハセルガ如  
 キハ洵ニ以テ多トスルニ足レリ嗚呼堂々タル京都市  
 ノ紳士巨商ニシテ徒ラニ自大自尊寸天尺地ノ間ニ嘯  
 嗽シ舊夢未タ醒メズ悠悠トシテ四疊半亭ニ茶儀ヲ行  
 ヒ然ラザレバ即チ祇園ノ高樓ニ登テ美術ノ中心東洋  
 ノ樂園ヲ妄想シ樵街之旗亭臥容ノ東山ニ對シ山紫水  
 明ヲ誇稱スルノ徒此書ニ對シテ愧死スベキナリ官衛  
 又ハ會社ノ吏員書記ヨ冀クハ暑中休暇ヲ以テ海水温  
 泉ニ澡浴スルノ費用ヲ轉シテ時ニ或ハ斯ノ如キ遠遊  
 ナ試ミヨ其心目ヲ豁大ニシ志氣ヲ活潑ニシ宛モ幽冥



ヲ出テ、天日ヲ拜スルガ如ク雲霧ヲ排シテ青空ヲ望  
ムノ慨アラシクナリ之ヲ序トス

明治庚子立春日

香夢庵梅痴生識

# 遊清雜記

石黒劔次郎著

遊 清 國 記

清國に遊ぶ

兼て清國に漫遊の志あり昨夏恰も石田喜兵衛氏の北清地方商工業視  
察の擧あるに際し一行に加はるを得たり八月一日出發の筈なりしも  
滬船の都合に依り十日に延び再び廿日出帆に延期となれり今度こそ  
は間違なきとの事にて予は廿日午前六時知友諸氏の見送りを忝ふし  
神戸に出で一行に兵庫清風樓に會す已に乗船の後と思はるに未だ滯  
在とほと問へば滬船東英丸漸く今朝神戸に入港せり廿三日に非ざれ  
ば出帆せぬとの話し兎に角船を見んと東英丸の着船を聞き和田岬に  
觀る英國製にして長六十五間幅六間二千七百餘噸元と英佛間の郵便  
船なりしを目下は荷物船として伏木の中越滬船會社の所有なり船を



出で旅舎に歸り午餐を喫し高柳山下加藤の三氏と共に舞子に遊び左海屋に入り海濱の一室を占めビールを呼び一杯を傾け海水に浴し出でては白砂青松の間に乗馬を試み優遊三時を費し明石に至り足の向き氣の進む方へブラ〜海邊を逍遙して歸舎せり廿一日船待するも体屈攝州寶塚へは阪鶴鐵道あれば見物旁々入湯も面白からんと高柳氏と共に午後三時神戸發の列車にて神崎にて阪鶴鐵道に乗替へ寶塚にて下車分銅屋に入る停車場より寶塚温泉へは三丁車なくとも差間へなし温泉に入る前藥泉わり一椀を傾け浴後炭酸水を飲めば病に効能ありと温泉の前に河あり橋あり嵐山に於る渡月橋に似たり風景掬すべし有馬の鳴動以來浴客増加せしも例年に比せば五分の一なりと旅舎は八軒ホテルもあり分銅屋寶泉樓冠たり夕餐の後盆踊を停車場の北なる一村に見る何處も同じ盆踊村娘七八音頭取を中にして面白さうに踊廻るは田舎の最大快樂なり看る少時にして分銅屋に歸り

十時兩人話しつゝ眠る翌廿二日更に有馬に行かんとの議熟し分銅屋を辭し生瀬停車場に至り人力車に乗り生瀬温泉を左に見山中風景絶佳を眺めつゝ時々車を停めて天然の眞景を賞し正午有馬に入り御所坊に投ず入浴の後市街を散歩す山嶽の鳴動より浴客頗に減じ例年の十分一なきも相變らず外國人は市街の上の小高き甚だ粗末なる家屋を借りて避暑し居れり毎夏三百五十人位は居るよし炭酸水を啜り瀧を觀日暮旅舎に歸り疲勞を床上に忘る廿三日は出帆の筈なれば有馬を發し三田驛に着十一時發の列車にて二時神戸に歸る聞けば又廿五日に出帆延たこのことにて此夜兵庫に泊し廿四日須磨に至り他の一行と保養院に會し優遊暑を避け英氣を養ふ此地濱岡社長令夫人の野田別業に療養中なりしを以て行て見舞ふ雜談數時辭して歸る此夕月光明美海岸に逍遙し漁夫の網を引くを見時の移るを忘れ十一時寢に就く廿五日神戸より本夕乗込む可しとの報あり衆欣喜直に歸途に就



き荷物の準備等にて午後十時中の税關より短艇にて東英丸に乗込み  
り他府縣よりの人を合し二十四名廿六日午前九時拔錨波穩にして風  
なく上海へ直行する事にせり一行皆甲板に出で快談百出日の暮るを  
不知廿七日午前十時四十分門司馬關を通過せり午後二時頃より風吹  
き始め四時頃には強風となり七時には雨加り暴風雨となれり激浪は  
甲板を洗ひ時々甲板上にある客室の屋根を越すに至り船体動搖劇し  
く一行多くは船暈し壹岐へ一時避難する筈なりしも幸ひ風の方向變  
りたる爲め避難するに至らず廿八日より漸次風雨収り廿九日は全く快  
晴となれり予は廿八日終日苦惱食を廢せり一行多く然り石田氏丈は  
暴風雨中も屈せず船暈者の世話に盡力せり三十日午前八時無事吳淞  
沖に停船せり直に短艇を雇ひ吳淞に上陸す楊子江の下流海に注ぐの  
處八十哩位は海水をして泥水と變せしむ楊子江の大なる推て知る可  
し日本にて河と云へば大抵向ふ河岸は一方から見らるゝも楊子江の

清 國 に 遊 ぶ

下口にては迎も向岸を見る不能實に大なる河なり吳淞より上海迄中  
等漁車賃四拾錢なり午後一時二十二分發二時上海に着す拾錢を支那  
にて一角一回を一塊と云ふ銀貨は我國貳拾錢拾錢は通用差支なし上  
海吳淞間の鐵道は中々立派なるものにして客車の完全なる我國にて  
多く見ざる處なり上海停車場より馬車にて米租界鐵馬路なる東和洋  
行に入り先發諸氏に會す東和洋行は日本人の設立する旅館にして彼  
の金玉均氏の遭難せし處なり其室今猶ほ存す上海にては日本旅館の  
第一たり一行中大阪神戸よりの人は常盤及び「カーチスホテル」に投ず  
三十一日張園愚園を觀後日本領事館三井物産會社村井商會を訪ひ夜  
茶館と稱する支那人俱樂部様のものを觀たり九月一日は午前張園に  
於て一行打揃ひ佐藤寫眞師に依り探影す午後五時大東漁船會社の曳  
船杭州に發するを以て午後は出發準備を爲し時間の至るを待ち杭州  
蘇州視察の途に就く此二州を視察する凡そ一週間の豫定にて再び上

清 國 に 遊 ぶ



海に出で北清に向はんとす上海には二州の視察を終りて五六日滞在  
此地の視察をなし芝罘を経て天津に航すべし上海の事情は二州より  
歸滬の後に譲る

### 上海と杭蘇二州間の交通

上海と杭蘇二州間の交通

此間の交通は本邦人の設立に係る大東瀛船會社の瀛船に依り上下せ  
り上海杭州間は清里四百五十里にして毎日午後五時双方より一回づ  
ゝ小蒸瀛船を發し之に支那船五六艘を曳かしめ旅客貨物の運送を爲  
せり午後五時上海を發し黃浦江を溯り運河に依り航行せば翌々日の  
朝杭州に着す瀛船は中等壹圓貳拾錢但し杭州より上海へは壹圓四拾  
錢なり支那船の曳料は六圓にして貨物の運賃は多少に依り變動し一  
定せず蘇州上海間は五時に出帆し翌朝上海に着す大東瀛船會社は本  
店を大阪に支店を上海杭蘇二州に有し資本金拾萬圓にて年々政府の

杭州より上海へ輸出入品

補助金參萬圓あり瀛船七艘を以て航路に充てり運河は溯るに隨ひ河  
幅狭く漸く小蒸瀛二艘並行する位にて兩岸は蘆荻多く旅客舟中無聊  
に苦めり途中處々に歐米人なる支那稅關吏の脱稅者を見張れり若し  
數年の後英國にして此間に鐵道を布設するに至らば一變せんも先づ  
夫迄は邦人の手に交通權を撐り得べし

### 杭州より上海へ輸出入品

杭州より上海へ出する貨物は絹織物生糸茶藥品扇子等にして此等は  
一度上海に出で再び各地に向ひ再輸出せらる運賃は絹織物百斤壹圓  
參拾錢生糸百斤八拾錢なり上海より杭州に入るの貨物は雜貨多くし  
て其内マツチ等尤も多く他に著しきものなし



杭州に於ける日本領事館は城内の運河に近き尤も立派なる清國建物  
を以てせり館員は事務代理速水一孔及び杉山の二氏にして速水氏は  
京都新烏丸の人同館設置以來在館せるを以て杭州の事情に頗る通せ  
り余輩京都より同地に旅行せしもの數十名両氏の懇切なる差圖に依  
り諸事便利を得たり

### 杭州の機業

清國第一の機業地と云へば人先づ指を杭州に屈す産額一年壹千四百  
萬圓以上にして我西陣に酷類せり織機數四千個以上あり皆な個人工  
業にして一家七八機を備ふるを中以上の織屋とす多くは一二機にて  
營めり織機は本邦にて高機と稱する西陣にて明治七八年頃使用せし  
ものと同一にして織方も異なる所なし絹織物は緞子紋羽二重縞子等に  
して染糸より織るを熟貨と稱し生糸より織り織上の上染めるを生貨

### 杭州の機業

と稱せり絹織物の價格は大抵百目七圓以上八圓位にして變動少し織  
工の賃錢は上等一日七八尺より一丈位を織り七八拾錢以上壹圓迄と  
す皆な織物屋に衣食せり是等織物の原料たる生糸は此地産及び湖州  
産を使用し百目參圓參拾錢以上六圓迄位の品を費消せり織物盛大な  
るを以て従て養蠶盛にして本邦養蠶教師二名現に傳習に従事せり糸  
の練方は灰汁練のみにて石鹼等を用ひず舊法に依り若練を主にせり  
糸撚式は本邦の如くにて異同なし染料は總稱して顔料と云ふ國有の  
染色は僅に天青二藍醬色金駝等にして今より二十年前初めて人造染  
料の輸入あり目下は十種位を使用し天然染料十二種程あり此染料を  
以て巧に八十種以上の染色を施すと雖ども其方法等は學理に依らず  
媒染劑の何物たるを知らず天然染料を除くの外は梅干より得たる酸  
と明礬を用るのみ日光及び洗濯に堪へざるを憂ふるも清國絹織物は  
洗濯せざる習慣なるを以て別に販路に影響せず只だ需用者も價の安

### 杭州の機業



きを好むを以て承知して購求せり衣服の色合は文明の風潮漸く浸入し清人も又た大に歐化の傾ありて益々華美を競ひ從來殆ど流行の中に心懸なりし北京及び蘇州は上海に及ざるに至れり思ふに此地絹織物に適するを以て本邦より新規なる織機を輸送し加ふるに巧妙なる技術者を教師として派遣し原料より職工に至る迄凡て清國ものをを用ひ本邦及清國向の絹織物を製産すれば原料及び職工賃安き爲め従て製品の價格も安く好果を得るならん此の種の設計一二本邦人に依り畫せらるゝ雖も未だ着手に至らず世の起業家奮發して實行の一日も速ならんことを望む

### 清人衣服の新調

清國人の衣服を新調する習慣は先づ裁縫匠を呼び豫め衣料を示し價格に應じ表何尺裏幾何を要するかを打算せしめ主人自ら呉服屋に至り色柄合等を選択して購求し裁縫匠は家人の面前に於て裁斷し餘り切れは返却し衣料は自家に持歸り絲と糊とを以て之を製す故に支那人は衣服の洗濯を爲さざるに非ずして能はざるなり且つ仕立替を爲さず所謂着殺すと云ふ姿にして稀に色上を爲すを見るも其方法は衣服の上より只だ染料を塗抹し置くに過ぎる位なり

### 阪本菊吉氏

元京都染織學校教師にして當時農商務省織物練習生たる同氏は目下杭州に滞在し専ら織物の爲め日夜學理と實地の研究中にて常に駱駝橋畔なる胡繩祖と云ふ有名なる染物屋と同居し頭髮より服裝に至る迄支那風にして一見邦人たるを辨知するに苦しむ風俗習慣異り兎角衛生上に注意少き清人中にあり日夜孜々怠らず斯業の爲め研究せらるは邦家の爲めに喜ぶべきとなり猶ほ他の實業方面にも如此學理と



實地に富める當業研究者の一層多く派遣せられんことを欲す

### 杭州の居留地

戦勝の結果得たる杭州の居留地は城内を去ると十八丁總坪數十八万坪あり然るに今日に至るも借地の出願者尠なく草莽々僅に許可を得たるもの一万坪に不過借地者は重に東京の人にて畢竟前途を見越すのみ故に多くは借地せしと云ふ迄にて其儘になり居る處多し借地料は清國の一畝(我二百四坪)上等地にして百七拾五圓下等地なれば百六拾五圓なり一年に地租一畝に付き貳圓の定めとす望の人は我領事館へ願出でば許可せらるべし家屋建築前水田なるときは地上を要し此費一畝に付き凡貳百圓内外を要す建家建築費は一坪凡そ拾圓にして一軒廿五六坪を普通とす一己人の借地出願は十畝迄に制限せらるゝも法人にして使用の方法廣大の場所を要する場合には此の限に非ら

ず折角得たる居留地を雜草の繁茂場所と成し置くは詰らぬ事なり上海の如きは居留地の地所漸次騰貴し目下一坪貳百五拾圓と稱す上海の一坪杭州の二百坪を購て剩れり何時か必ず騰貴せん今に於て資本家たるもの放資せざれば他日必ず隘膺の悔あらん

### 杭州の東西本願寺

此地に於ける本邦居留率先者は兩本願寺の宗教家にして東本願寺よりは伊藤賢道師(文學士)を初め外四師を派遣し開市以來着々布教興學に従事せり特に本年三月一日より日文學堂と稱する學校を起し日々日英語及び科學を教授せり開校當時は無月謝にて教へたるを以て日々三百名内外の通學者あり非常に盛大なりしも其内眞に學問の目的にて來るもの少なく兎角遊び半分と云ふ体裁のもの多きより實際の勉學者に妨げを來すの恐るるを以て現今は月謝を取る事にせり是れ



全く一の生徒撰擇策にして利に掛けて拔目なき清人如何でか錢のことに一考せざらんや忽ち怠惰連は去て跡なく月謝を出すも學習なしたき立派なる希望者のみ現に五十餘名在學しつゝありて此等生徒の就學年齢は秀歳と稱する十七八歳より擧人と名付くる三十歳前後迄とす何れも清國普通の儒學は卒業せしものゝみにて何時にても清國の役人たるを得る者多し教授の程度は我國の高等小學より中學高等中學迄位と爲しあるも差支なく學科を理解せり生徒の内商家より來る者は妙な習慣ありそは毎月の初と末とは出席せずして中頃は悉く出席せり是れ全く商業を手傳ふ故商業の多忙なる時は休學するを例とし常に忠告を加ふるも馬耳東風にて教師も困り居れり然りと雖も學力漸次進歩し前途大に望ありと喜へり學堂の家屋は元と清國郵便局の跡にて廣大なり猶ほ狹隘の爲め分堂を別に本邦領事館の附近に設け初學生を授業せり過つる頃迄新門主此處に滞在せられたる

も目下は各國の事情習慣等取調の必要上より上海別院に滞在中なりと新門主に隨行せる福永氏と余は知己たるを以て上海滞在中訪問し合せて同氏の紹介により門主に面會爲し度思居たるも不圖俄に乗船北清に向ひ其機を失す西本願寺は香川巡教師外四師を派遣し同じく布教興學に熱心從事せり學堂の生徒は東本願寺より多數の由勿論教學其宜きに依るならんも幾分か無月謝たるによるならんか其他は東派と差異無につき略す

此地邦人の宿するに適當の旅舎なく故に旅行者は大抵領事館或は東西本願寺に請ひ宿泊するを例とせり余輩より前に此地を見舞し一行は西本願寺に厄介に成りしを以て今回は均勢上東本願寺に世話になるこそ然るべしと一決遂に余輩は東派に宿泊を請へり前者は西京丸にて航し西派に宿す後者は東英丸にて航し東派に投ず何ぞ夫れ東西相合するの奇なるや是れ亦何かの因縁ならんと佛者の一人は笑ふ



附記す此地外國布教者は日本の外基督教會五箇所あり國別にすれば英米獨の三國たり一教會に信者大抵千人以上を有し宣教師は永きは三十年前短きも二十年前より來り皆な同一人物献身的に終身此地の布教に従事する大覺悟を有し且つ布教以外に人情風俗より潮流の工合氣候變換等に至る迄凡て手の達し思の届く事は常に取調を怠らず結果を領事館に報じ其國の商業上なり總て其他の事にては何一つ分らぬ事なき迄に調査に日を送れり彼等の本國の教會にても亦派遣者の爲す運動に應ずる丈の備へあるを以て双方相應じ宜しきを得新に開く布教地にも忽ちにして學校病院等の慈善的の事業一として完備せざるはなし基督教今日の隆盛洵に故あるなり本邦宗教家も正に如此方法を以て進めば必ずや基督教より猶は一層の好結果を見る可し

## 西湖

天に極樂あり地に西湖ありと迄過賞せらるゝ有名の西湖は杭州府湧金門外にあり四時内外風流紳士の訪ふ者多く山紫水明名區に耻す周園凡そ四里三方山にして一方市街に接し小島あり大塔あり雅園あり名所舊蹟枚擧に遑わらず周遊せば二日を要す余は雨を侵して午後一時湖岸に出で小舟に乗じ當時巡撫の別荘となりをる一小島中にある庭園に入る境内蓮池多く架するに石製の曲折したる雅橋を以てす眺望絶佳なる所三角なる一小堂あり形の如く名けて三角堂と云ふ之れ園中著名のものなり六角堂の半分なるも京都の如く佛像を納めず唯だ望景臺のみ別荘の家屋は廣大美麗大刹の如し時間の都合と雨風の益々加ふるに閉口し未だ西湖の西湖たる眞價を見ざる中に瀟鼠の如くなり舟を雇ひて蘇州行の乗船場に走る時に午下四點鐘

## 學者の淵叢



杭州人口六七十万と稱す土地高燥にして排水宜く空氣の流通善良なり風俗華美にして性質温良儒雅を尙び文學を重んず常に碩學名士の集るもの多く加ふるに巡撫衙門あるを以て官吏の住居又妙からず北京と共に學者の淵藪と稱せらる我朝野の士此地に遊はゞ蓋し得る所大なるべし目下邦人の在留者僅に三十餘名に過ぎず

### 蘇、杭、二州間の往來

二州の間又舟楫の便によらざるべからず現今清人設立の滙船會社小蒸瀛を以て相往來せり里程清里三百里と云ふ午後五時杭州を發し翌日午後五時蘇州城外なる黃州碼頭に着す支那船一艘の曳船料八圓五拾錢とす途中田野の光景を遙に望み兩岸に桑樹の繁茂したる貞婦を賞揚する爲め建たる石門の村落附近にゐる、水牛の河中に頭のみを出し優遊自ら娛む等を觀聊か退屈を醫す

### 蘇州の絹織物及び扇子

蘇州は上海を距る西北三百五十清里北京を去る南方二千七百清里にゐる江蘇省の首府たり運河四通八達交通の便頗る宜く船舶常に輻湊し繁榮杭州に下らず人口六七十万を有す物産は緞子縐子紗縐縮緬等の絹織物を第一とす一ヶ年の産額千萬圓以上にして機業者は凡そ二千軒以上あり何れも家内工業にして製品は此地に使用せらるゝ外は上海に出で再び各地に發送せらる織物の價格織機及び製造方法職工賃錢使用法等は總て杭州と大差なく製品又優劣なし生糸は此地産及び九十清里を距る無錫及香山産等を用也扇子扇團も亦當地の特有産物にして蘇杭扇の名頗る高し扇子は一本參拾錢位より拾圓位迄あり壹圓五六拾錢の物にても両面共金地にして表に人物景色等の繪畫を施し裏に文字あり何れも肉筆にして美麗なる中に雅致あり團扇は凡



て絹張にして圓形六角八角等あり一本參拾錢以上參圓位にて花鳥人物等の繪畫を描けり扇子は日本製より稍々長くして大なり年々莫大の産出あるも統計なきを以て其額を知るを得ず

### 城外の寒山寺

月落烏啼の詩により有名なる寒山寺は蘇州城外二十淸里にあり余は過般同行者十一名と同地に滞在中は旅館なき爲め上海にて雇たる支那船を蘇州城外なる貴州碼頭に繋ぎ舟中に寢食せり同所より寒山寺へは我が三里なるも人力車通せず船か輿か馬かの中にて行かざるべからず舟も乗り飽き輿は上下六回にて不廉なるを以て馬に決し上下壹圓五拾錢の約にて九人馬に跨る馬は駄馬にして瘦馬多く馬慣ざる他の二人は驢馬に鞭ちて發す太平橋畔大東瀛船會社の前に至れば兼て共に渡清せし大阪神戸馬關等の人々上海より蘇州へ合着したる

### 城外の寒山寺

### 城外の寒山寺

所なり直に馬を命じ寒山寺行に會す一行十八人馬子を先に一列となりて進行す街道狭き爲め二列になる能はず馬の鈴音相和す聲鏘々宛然たる舊幕時代の東海道旅行の如き感あり一行相顧て笑はざるはなし途中運河に架する橋を渡る橋は舟楫の便を計り石造の目鏡橋なり高さ凡そ二間位の石段を斜に登り橋を渡り又斜に降る此邊の馬は常に橋の往來に慣れたるも馬背に慣れざる一行は橋を通行する毎に戦慄せざるはなし道運河に沿ひ二時間にして一小村落に達す此に寒山寺あり馬を下り小高き處に行く一小寺の門を閉し額に寒山寺と惡筆にて題するあり一行其粗陋なるに驚き有名の寒山寺に非ざるやを疑ふ内より老人出で門を開きて通す左折すれば狹隘なる堂宇あり佛像を安置せるも裝飾品等多からず佛像周圍の白壁には落書多く邦人二三戯に姓名を書けるわり諺に名物に甘きものなしと是れは名所に良きはなしと云ふべきか實に寒山寺こそ寒山の二字に背かず寺の前に



架せらるゝ石橋を楓橋と稱し寒山寺に續きての名所なり是亦價值なく加ふるに四邊悉く俗物多きを以て名所も名所たる能はず今にして適當の保存策を講せざれば朽廢に歸すると遠からざるべし若し清人にして策なくんば邦人にて保存する亦可ならん長髮賊以前は蘇州より寒山寺迄は町續きに成り居たるも其害を受けし後今日の如く離れたりと云ふ

留園

蘇州城外二里寒山寺に近き處留園と稱する庭園あり閑靜幽雅蘇州唯一の樂園たり常々市民擧て遊べり目下鐵路公司の役員たる盛否生の所有にして蘇州名所の一なり此地に遊ぶ者訪はざるはなし園の周圍は白壁にして恰も城廓の如し拾錢を投じて門を入れば園内極めて廣く山あり池あり風雅なる大小の家屋は配置よく建られ樹木鬱蒼閑雅

愛すべし園の中央に大なる一棟あり演劇場とす我國の劇場と同じく正面の一段高き處を舞臺とし土間には立派なる紫檀の机及椅子を格好よく配列し二階棧敷又三方にあり木材の美建築の雅本邦の劇場に優る數等園内廊下の壁には有名なる書家の詩文を長方形の石に彫刻して箝込あり石摺となすものあるにや黒くなり居れり白壁に配して面白し一小屋の池に臨み建てらるあり左の語を掲ぐ

小園新展西南角明月誰分上下池

又假山の上眺望佳にして寒山寺を望む一亭題して

地接寒山百八鐘聲來夜半

人遊花步廿四風信滿園中

と云ふが如く亭屋のある處必ず對聯ありて雅趣多し園中猴と鹿とを飼育せり山少なき爲め珍らしきにや此園先づ蘇州の公園と見て可ならん



## 蘇州日本領事館

城内の廣大なる建築物を以て領事館とし郵便局又館と同一邸内にあり領事は是迄英國倫敦にありし加藤本四郎氏にして余輩の訪ひし時は着任日淺く未だ二週を出でざりしと聞けり此日雨あり加ふるに夕刻にて舟のある處より凡そ二十丁道路泥濘歩行頗る困難せり歸途を慮り十分の教を請はずして辭せしは遺憾とする處此地農商務省練習生高嶋篤治氏あるを以て加藤領事より添書を受く

## 城外支那人の居留地

蘇州城外道路廣く兩間に宏壯なる家屋併列し馬車人力車の常に往來頻繁なる處凡そ十丁是れ支那人の城内より引移りし新開地にして支那人居留地と稱す青樓尤も多く茶館雜貨店此間にあり青樓多き爲め

日々繁華に赴き隨て青樓亦増加せりと蘇州は清國中尤も美人に富むを以て至る處蘇州美人の名高く恰も我京都に髣髴たり蘇州人の盛裝なし晝夜を分たず家族と共に數輛の馬車に鞭ち幾度となく居留地を往來するあり歌妓と共に乗るあり或は婦人のみ乗るあり男子のみ乗るあり千態萬狀華美を競ひ衣を飾り美を盡し相往來し以て快となす是れ全く蘇州人唯一の快樂とする處よして余輩より見れば譯もなく市街を乘廻す何の面白き事かわらん痴の極と云べし然れども彼等の爲す一理なきに非ず城内元と清國の例として道路狭く人力車の通ずる能はず漸く乗物としては轎を通ずるのみなり故に城外の居留地に出で廣き道路に於て輕車肥馬に鞭ち飛廻るも無理からぬ事にして氣を散じ体を養ふには妙ならん此支那人居留地を眞直に行くこと十丁蘇州の税關あり英人管理せり

居留地の中央妓樓の邊一大製糸會社あり蘇徑絲廠と稱し清國人のみ



にて經營せり悉く洋式にして三百人取りなり余輩は豫て日本人には見せざるやに聞き居たるも門番に刺を通じ言葉の分らざるを機とし工場内を一覽せり中々好く整頓し居るには感心せり此日通辯を伴はざりしを以て嘔の見物要領を得ず只だ職工の爲し居る事位を見しに過ぎず一年前此會社に日本人一人從事せし由なるも今は去て居らず職工凡そ千人を使用せり

茲に又商務紡紗公司と云ふ張之洞の設立する紡績會社あり資本金百萬圓錘數一萬三千と稱す是亦黒烟盛に上り多くの職工を使役す此二會社は蘇州に於ける文明的工業の開祖たりと云ふ

### 吉利洋行

我國より清國へ輸出すべき雜貨種々ありと雖も土地の情況等に依り又輸出物を異にせり蘇州は清國中尤も華美を好むの地なるを以て雜

貨も亦此の嗜好に適するものを輸出せざるべからず蘇州に於ける農商務省練習生たる高島篤治氏茲に見るあり邦人二三と計り此地適當の雜貨を備へ吉利洋行と名け蘇州城外繁華なる支那居留地に於て去る九月六日(清曆八月二日)の吉日をトし爆竹の音と共に門戸を開けり忽に門前市を爲し應接に忙しく繁昌思ふべし余は恰も滞在在中なりしを以て實況を見我商品の清人に紹介せらるゝを悦べり店頭の商品は香水、白粉、玩弄品、人形、木綿織物、綿ネール、シャツ、パイプ、蝙蝠傘、メリヤス、ハンカチ、石鹼、鏡、錢入其他雜貨としては大抵備はざるはなし清人をして我商品の眞價を知らしむるこそ今日の急務なり先づ第一着手として此開店あり余輩欣喜に堪へざる所なり願くば不撓不阿邦家の爲め益々努力せられんことを希ふ

### 蘇州の專管居留地



蘇州に於ける我國專管居留地は城外支那人居留地の地續にして運河に沿ひたる有望の地たり總坪數十八萬餘坪にして位置のよき杭州居留地の右に出づべし既に借地權を得し者多く殆ど其一半は許可済になれり借地料は土地の甲乙に依り支那一畝(我二百四坪)百六拾圓以上百七拾五圓迄にて杭州と同く領事館に出願せば許可を得べく地租一ヶ年貳圓出願の際手数料參圓を要するのみ目下支那居留地に接する繁華なる部分は支那人向の借家を建て支那人に貸與せり支那人の邦人の名前を借りて借地なし家屋を建築するあり他の多くの部分は悉く杭州と異なる事なく雜草繁茂せり借地權は一己人にて十畝迄會社團體等の法人にして土地廣大を要する場合は此の限にわらず特別に許可せらる惟ふに此地運輸の便利善く加るに尤も繁昌の地に接し日々隆盛に赴き商工業者の起業に適當す我商工者の早く渡清し繁榮を計らば數年を出ずして地價數倍に騰貴すべし故に土地所有權を先占す

るは急務中の急務たり聞く英國人の危險を冒し先を競ひ新開殖民地に移住するや第一の目的物は土地の所有權にして人戸増殖するに隨ひ寒村も變じて大都府となり初め一坪拾錢位の處十年二十年の後は拾圓貳拾圓と騰貴し赤手渡航せしものも大富豪となるの例抄しとせず現に英領加奈陀の如き然りとす我國に於ても北海道の如き二十年前と今日の地所賣買を比較せば非常の騰貴にわらずや人戸増殖に地所騰貴の伴ふを以て自然の結果とすれば徒に清國居留地を雜草に委ぬるの愚をなすべけんや試に世の紳士紳商諸氏兄等狹斜に投ずる費一半を割き居留地を購へ十年の後必ず余の勸告を謝すべし

### 東萊機業公司

是れ京都の伊藤九州の平岡兩氏の計畫に係る機業會社にして蘇州日本居留地にあり元と演劇場たりし建物を買受工場となし目下内地よ



り輸送せし織機の備付中にて當分七八機を用ひ漸次増加の方針なり  
 と第一着に織機の効能を同地機業家に示し同時に絹織物等を爲す等  
 にて是れより日本織機の同地方へ輸入を見るに至るべし織工は今日  
 の處悉く内地人なるも追々支那人を使用するに至るべし製織物は日  
 本支那兩様向の品を製造する由定めて好結果を見るべし余の同地旅  
 行中同行者の内二人出帆時間を誤り遂に乘遅れたる爲め翌日二人同  
 地に滞在東萊機業公司を訪問せし際一人の者病氣の氣味ありしたため  
 一時俄に眩暈し同社にて非常に厄介になり且つ上海迄態々一人附添  
 人を付して送り來れり眩暈者姓は宮川氏名は常次郎厄介になりし恩  
 は終世忘る能はざるなりと上海にて語り尤の事にこそ

### 上海に於ける日本の商業

上海は清國中第一の貨物集散地にして百貨輻湊帆檣林立し交通運輸

より金融機關保險等商業百般の事整頓せざるはなく英米佛三租界な  
 る居留地一般道路の完美建築の宏壯商業取引の習慣等を視るに清國  
 にして清國に非らず殆ど歐米にあるの感あり外國より輸入の貨物は  
 多く此地に入り後再び内地各州に分配せられ清國內地産物又必ず此  
 地に出で然る後各地に向ひ輸送せらる故に商業機關備はり清國唯一  
 開港場のみならず東洋貿易市場の覇王と云ふべし茲に於て清國に於  
 ける各地貨物の需用供給及び流行嗜好價格等を知らんと欲せば上海  
 を以て尤も適當の地とす

上海に於ける諸外國商の内先づ英米獨佛等多く就中英國商の取引尤  
 も盛也是れ鴉片金巾等の輸入多額なるを以てなり近年獨逸頻に商業  
 政策を行ひ東洋に商工業者を送る事日々に多く今や東洋の沿岸は獨  
 商の足跡至らざる所なきに至れり同國は摸造品に巧にして日本の漆  
 器等は常に摸造せられ露國等の市場は日本雜貨として獨逸摸造品を



歡迎せり獨逸も亦商業界の小敵にわらざるなり

蹶て上海に於ける日本商業は如何と云へば先づ前記諸國の後に付かざるべからず現今日本人の此地にあるもの千五百名にして男子千人女子五百人の割合なり明治二十六年に比べば殆ど二倍以上となり又進歩の見るべきものあり商業家の重なるものは三井物産會社、日本郵船會社、大阪商船會社、正金銀行、村井商會、鹿嶋洋行、日東洋行、東起洋行、瀛華洋行等にして其他は枚擧に遑わらずと雖も餘り大なる商業家も多くは非らざるべし會社組織のもの及び其他と雖も大抵は合本事業多きを以て上海にある商店は支店のみと云ふも可なり商業の種類は綿糸海産物器械石炭雜貨等にして逐時盛大に赴くと雖も他の外商と遜色なき迄に至るは恐らく數年を費さざるべからざるべし清人元と商業には頗る鋭敏にして常に協贊一致の方針を取り金融機關に富むを以て早くより我國に渡來し巧に我内地商を苦め到底商工業者の

引合はざる迄に直切り本國へ何種何品に限らず交易なし居りしを以て既に日本の清國に對する商業權は不知不誠の間に彼等に占られ今は實に是れが商業權挽回の時機にして此好期を失せば又其機非ざるべし此策他なし我國商工業者は常に眼を東洋に注ぎ各自商業の好機を見れば直に進んで清國沿岸開港場及新開地に赴き今日横濱神戸に於て清商が盛に商業を爲す如く猶ほ一層目醒しく彼我の貿易を計らば必ず又不知不誠の間に商權我に復するに至るべし是れ見易きの道理にして只だ實業家の奮發如何にあるのみ

余は過般清國漫遊の途次韓國仁川京城に立寄れるを以て清國に於ける我が商工業者と韓國にある商工業者とを比較せしに雲泥の差ありと云べし人員よりするも仁川居留民四千五百人京城二千人と云ふ是に釜山元山其他の居留民を合すれば二万人と下らざるべし然に清國中の我が居留者を計算するも二千人の上には出でざるべし殆ど十分



の一たり何ぞ我が實業家の同じく東洋の中にあり韓に厚くして清に薄きや然りと雖も如此韓國に渡航者の多きは全く往古よりの關係ありと雖も亦一は韓人の我國に來り商業に従事するもの少く従て渡航せざる可からざるに至りたるを我政府の渡航勧誘民間に於ける朝鮮扶植等の議論ありし爲め朝野舉て目を注ぎたる結果今日の隆盛を見しなるべし尙は同國人は取引の上に組し易きにも依るべし日清戦争に勝利を占め平和の戦争たる商業に敗を取るに至ては全く我商工業者の耻辱よて清人若し日本は實に強國なるも其商業者は恐るゝに足らずと云はゞ正に何を以て答へんか余輩杞憂に堪へざるなり我國封建時代の餘習未だ實業界を脱せずと雖も已に三十餘年を経たり醒眠一日遅れば一日の悔あり富國強兵は四千万人舉て希ふ所富國の基たる實業家にして設計其宜しきを得ざれば衆望に反すべし大に鑒みざるべからず

### 三井洋行

是れ三井物産會社上海支店の名稱にして支那商一般に信用厚く三井の名尤も高し明治九年設立以來益々隆盛に赴き上海に於ける我商業家中此の右に出るものなし一兩年前迄は店員に清人を多く雇居たるも其後追々解雇し現今にては大抵本邦人のみにて盛んに營業せり開業の當時は清國の商業習慣に馴れざるを以て清人を使役なしたるも既に邦人にして在清の久しき清國事情に精通するもの多きに至り初めて邦人のみにて取引するを得たりと云ふ兎に角清國貿易を爲さんどせば先づコムプラドールと稱する支那人の番頭を雇入るれば頗る營業上便利なり故に外商は必ず雇入るゝを例とせり三井洋行は先頃より内地要路に店員を派し商工業の視察を爲さしめ居る等着々營業擴張に盡力せり業務を綿花綿糸部船舶保險部雜貨部に分ち各部に主



張 園 愚 園

任を置き支配人小室三吉氏総轄せり實に三井物産會社の如きは我國貿易商の内にて資本豊にして其人に富み清國事情に通じ商機に敏なる等盛大に赴く又故あるなり如此にしてこそ初めて國光を輝し得べし我商始めて上海に店舗を設けしを明治四年とす爾來起伏常なく開業以來引續き營業するもの稀にして大抵二三年にて失敗するもの多し之れ全く資本の缺乏商事に通せざる忍耐力に乏しき清商の猪手段に乗る等の原因に依り已を得ず閉店の運命に至るべし對清實業家は注意を要すべきなり

張園、愚園

此二園上海居留地名所の一にして張園は清國人所有の洋風公園なり廣さ凡そ五丁四方にて園の中央に煉瓦造大廡あり中に机及椅子數十脚を配列し誰にても勝手に休憩し且つ飲食等をも爲すを得べく公園

と稱するも先づ俱樂部と云ふ方適當ならんか商業上と社交上との別なく來り會するもの多く常に賑へり園内劇場及玉突場等ありて閑散の容半日を消すに足れり

愚園は張園に反し純粹の支那風建築にて蘇州の留園と同じく重に支那人の集會場にして園内喫煙室及劇場等あり入園料拾錢を徴す建築の古雅庭園の幽邃蓋し我國園藝家の垂涎措く能はざる處なり

道路の清潔と巡查

上海居留地の道路は至て清潔にして歐米風に出來歩行頗る便利なり損所は常に蒸氣力にてロールを廻し修繕洵に巧なり街道の辻必ず清國の巡查假頭笠を覆り小倉の藍色にて支那風の洋裝に近き服を着け往來に注意せり猶ほ赤布を帽子の如く頭に巻き付け丈高く頬髯黒き嚴しさうなる印度人の居留地巡查眼光鋭く見張るあり又佛租界には



佛國巡査ありて巡廻せり故に人馬の往來縊るが如きも衝突等の起らざる様巧に警戒せり

### 上海の日本旅館

日本人の設立せる旅館は五軒あり曰く東和洋行常盤舎日進洋行豊陽館友永とす宿泊料壹圓五拾錢以上參圓五拾錢位迄にて本邦と大差なし故に食物其他別に異なる事なく清人の通辯も大抵一軒の旅宿二三人位づゝは出入するを以て初めて旅行せし人と雖も少しの不自由を感ずる事なし近頃の統計に依れば上海に於ける馬車六百輛人力車七千輛あり馬車一日貳圓五拾錢人力車は道の遠近によるも大抵居留地内なれば拾錢とす尤も人力車は清人曳き車は日本にて十年前位に流行せし巾の履き背の低き形にして毎月税金を納むる故車の後に半紙半分位の紙に歐文にて何月分税済と印せり如此出づるに通辯乗るに車

上海の日本旅館

あり至て便利なり近時上海を経て往復する本邦船客大に増加せし爲め従て宿泊者も多く旅館は何れも繁忙せり

### 博愛丸

日本郵船會社の赤十字社より十ヶ年賦にて借入れ本年五月より航海を始めし優等なる汽船にして昨年十二月英國グラスゴウにて竣工し總噸數二千七百餘一時間十五哩を馳り弘濟丸とは姉妹船にして赤十字社より一艘五拾萬圓にて逃へ郵船會社にて器具等を拾萬圓にて造り都合六拾萬圓を要し一朝戦事の曉には直に赤十字社へ返して病院船となす契約なるを以て船も又成るべく動搖等の少なき様給水其他病院として適當なる汽船に出來居れり目下の航海は長崎を起點として香港上海を經芝罘に至り仁川より長崎に歸りて直に浦蘆に向ひ元山釜山を過ぎて長崎に戻るの航路を往復せり弘濟丸も亦同一航路を

博愛丸



取れり博愛丸船長西村昌亮氏にして事務長に上谷續氏あり二氏乗客接待に甚務む余は上海滞在の中或る朝領事館に至りし時郵船會社の棧橋に博愛丸の横るを見同行者中事務長上谷氏の知友あり訪問旁々共に船を一見せんとし同道船に上り面會せしに本日正午芝罘仁川等を経て長崎に向ひ抜錨すべし船新しく賃又安し余等に乗船を勸む然りと雖も時既に十時出帆迄には僅に二時間を餘すのみ到底間に合はざるべしと思へども切りに勸められ心動き乗船に決し直に郵船會社に至り切符購入申込たるに時間遅れたる爲め一割増を要する筈なるも特別に切符を頼み置き旅宿へ歸り直に旅装を整へ船に乗る出帆二十分前にして已に錨を捲き黒炎天に漲れり是より先き旅宿に至り同行者に俄に博愛丸にて北清に向ふ旨を述べ別れを告たるに一人同行を望む者あり三人遂に同行せり後よりの一人は非常に時間遅れたる爲め船賃一割増にて支拂へり乗船馴れざる人は注意せざれば詰らぬ損

博

愛

丸

あり上海より長崎迄芝罘仁川を廻る爲め十日間海上に日を費すも船賃上等四拾五圓中等參拾圓下等貳拾圓とす余は中等に乗れり如此船と共に乗廻ると船賃は非常に安く凡そ半額なり上海より芝罘迄中等にて拾六圓仁川より長崎迄中等貳拾圓なるを以て乗廻りの安き驚くの外なし本年夏季上海在留の歐米人の避暑旅行とし且博愛丸の廣告を兼て一人百弗にて上海より北清沿岸及朝鮮の各港を経て浦蘆に至り長崎を過ぎ上海に歸り此間此日子一ヶ月を費し僅に經費前記百弗にして待遇尤も好く人員五十名の約なりしも廣告するや否や直に満員となり忽ち上海中の大評判となり乗客歸着の上各自彰徳表を船長に贈り其文を外字新聞にて日々吹聴する等中々好評を博せり余の乗船せし時は上等は多く歐米人にして僅に三名本邦人あるのみにて中等又六名本邦人のみなり下等は悉く支那人を乗す上等は艙部にあり中等は中央下等は艙部にあり船室は何れも甲板の下にあり世の中は

博

愛

丸



企次第と云ふ船中尤も然りとす上等の甲板運動場へは中等下等の客  
 は入るを得ず中等の運動場へは下等の客入るを得ず下等の運動場へ  
 は誰れでも行くことを得るも殆ど運動場なしと云ふ有様にて洵に下  
 等客こそ憐れなり余は瀛車は下等にて差して何とも思はねと瀛船は  
 下等に乗る人間並に扱れず寧ろ中等以上に非ざれば乗るべからずと  
 想へり是れは決して余の贅澤云に非ざるなり詐りと思ふ人あれば乗  
 船すればすぐ分るべし博愛丸は新造船なるを以て船室至て美麗にし  
 て余輩曩に渡航の時東英丸にて随分船室の清潔ならざりしに困難せ  
 しものは一層の愉快を感じ寝臺の下金線の網にて其上に藁布圍め  
 り毛布を敷きあるを以て少々の動搖は一向何共なく成程病人を收容  
 するには宜しかるべし朝起ればバスボーイ(風呂番)來り入浴を勧む  
 海水温浴にして傍に眞水ありて浴後冷水浴の便とす浴を終れば暫く  
 してコーヒにパンの焼たるを添へて船室に運び來れり彼是する中朝

博 飯の合圖ありて食堂に入り各自席に着くを例とす上等と中等は食堂  
 を異にし體裁の美惡雲泥の差あり上等は船長事務長機關長航海長陪  
 食し中等は會計長會食せり上中等は何れも洋食にして毎食必ず献立  
 書出で各々好む物を命ずる事ホテルと同様なり三時頃にコーヒにカ  
 ステラ位を添へて出し客の體屈を慰む食事は中々好く多く外國人相手  
 なるを以て精撰美味常に舌頭に上るべく十日間乗船參拾圓とすれば  
 一日參圓なり然るに洋食のみにて一食壹圓の價値あり丸でロハにて  
 航海せしと同一なり避暑旅行等に内地にて愚圖なし居るより朝鮮沿  
 岸より清國各港へ博愛丸如き各港廻り居る船に乗れば前述の如く安  
 く大抵の港には必ず二三日は滞泊するを以て一寸としたる用向や視  
 察位は結構出來船中にては食物よく海風に吹れ別に用向も少なく隨  
 て氣樂なれば氣も安樂故自然身体の療養になり海上の旅行に慣れ知  
 らぬ他國を見健康になり且つ費用も割合少なきと云へば先づ之れよ



り上策はわらざるべし清國朝鮮浦蓋位を廻れば始末せば中等に乗り百圓あれば大丈夫なり其上は勝手次第たり日本にても京都より日光見物位に行くも彼是せば百圓は入るべし都合よくば同志申合せ隊を組みて郵船會社等に掛合へば其上幾千かの割引するならん未だ海に出でざるの人は誠に乗船するも慰みなるべし兎角船に乗付けざる人は遠洋航海すると甚だ不安心に思へども決して然らず安全にして慣るゝに従ひ段々愉快を感じ其快味忘るゝ能はざるに至るなり實に海國に生れ海事を知らざるの耻之より大なるはなし

威 海 衛

威海衛

日清戦役に依り紹介せられ我が同胞の常に忘るゝ能はざる處にして清國北部の要港旅順口と相對して渤海灣の咽喉たり廿七八年の役我勇悍なる海軍將士の働に依り蕪沈せし當時の堅艦定遠は今猶は灣内

威 海 衛

水深き處に檣頭の一部を顯し沈没其儘にて大艦の影更になく恰も小舟の浮ぶが如く船員の語るを聞き儘に知り得たり廿八年二月十七日我軍占領以來昨年六月償金の皆済に依り清國に引渡す迄は我軍人二千五百餘名屯在せしを以て商工業者の集まるもの多く一時は非常の繁華なりしも今は我軍撤兵し又其跡なく漸く寫真師靴師等門戸を張れるのみ其他は上海に芝罘に各離散し我商の顧るものなし露國の昨年三月廿六日旅順口大連灣を租借するや英國直に均勢を保たんが爲め威海衛を租借せんとし先づ獨國の山東省内なる膠州灣を借入れたるを以て反對を起さしめざる様豫め同國と山東省内へは鐵道を敷設せざる約を結び次に日本清國償金を皆済せば撤兵するや否やを確めし後初めて北京駐劄英國公使マッドナルド氏より清國政府へ強硬なる談判を試み日子九十日を費し七月一日租借の定約を北京に於て取替せり爾來威海衛なる劉公島には英國ノ旗高く翻れり清國北部の軍



港たる旅順大連威海衛膠州灣等英露獨に租借せられ今は清國軍艦の寄るべき所なく哀れなる事と云ふべし旅順を初め貸與する時清國軍艦の出入自由たるべしとの約束なりしも後外國人の乗り居る軍艦は出入を許さずとの理由を以て露國は巧に清國軍艦を拒絶せり清國軍艦には大抵外國人乗船するを以て此拒絶に遇ひ如何共する事能はず漸く威海衛は何時にても艦の出入を自由になし海兵の上陸等勝手たるの約あるを以て清艦幾分の安堵はあるべしと雖も洵に心細き次第なり余の過般芝罘に至りし時改易改稱と稱する三千餘噸の灰色に塗られたる清國巡洋艦二艘の停泊するあり聞けば近頃獨逸へ逃へありし十二艘の内竣工の分を廻航し來りしなりと此の立派なる軍艦も行くに軍港なく風波荒く停泊に不便なる芝罘に横はること氣の毒千萬にて此末如何に成り行くものにや案じられた者なり近來清國分割とか保全とか種々矢釜敷議論あれども一國が北を借れば又他の國南の

威 海 衛

借入を申込み甲國是れを申出れば乙國彼れを欲すと云ふ有様にて但諺に堤防も蟻の穴より破損すと四百餘州に四億万人を有する大國と雖も段々嚙取られては不知不識の間遂には分裂の悲境に沈むなきか余輩同じく東洋に生を保つもの轉た感慨に堪へざるなり劉公島なる丁汝昌の居宅は現今英國司令部となり英國旗は門内高く掲げらる道路は英兵屯在以來英名に何々ロードと名稱せり島内山上の岩石多くは破碎せられ思はず戦争當時の事を追想せしめ人をして戦慄せしむ鍊兵場の前棧橋あり突出五丁悉く鐵製にして堅牢なること恐らく東洋第一ならん然れども中央より破壊せられ其慘たること激烈なりし戦狀を証するに餘りあり余の劉公島へ上陸せし時は日曜日なりしが二三丁も行きし頃清人二人來り通辯に話を聞けば余の上陸せし時英兵見張り居り清國警官に命じ余の姓名を問はしむるにわりと云ふ一葉の名刺を與へて市街を散歩し我寫眞師の店に入り數

威 海 衛



鱧の千疋つれ

芝 粟 れつ疋千の鱧

上海より威海衛迄五百哩二十六時間にして着す沿岸の航海たるを以て風波高からずと雖も時に激浪なきにわらず上海より凡そ三百哩も來たりし午前十時頃右舷に當り俄に高波の起るあり船員曰く鱧の千疋連れにして稀に見る處なりと漸次船体に近づくに及び一疋の大き二間位ありて奇麗なる魚なり眞に千疋連れにて船と競争を始め波間を踊越へ五間位づゝ飛越へ負けじ劣らじと各々競争する様の面白さは無聊に苦む船客には例ふるに物なし競争すること三里程にして鱧も疲勞せしにや又見へざるに至れり

芝 粟

芝

清國北部樞要の地にして咸豐六年天津條約に依り開港場となれり一に煙臺と稱す昔し此處を攻撃するものある時は變を四方に知らしむるため烽火を揚ぐるを例とせしを以て遂に人呼で煙臺と云ふに至れり人口凡そ四萬と稱す山水明媚清國としては土地清潔なる故に暑中の如きは避暑の爲め來る者多し前は海にして後に山を負ひ風景絶佳たり海岸に西洋旅館ありシービュホテルと云ふ海上の景色の良き此の名に依りても想像し得べし此地我國居留地確定せず目下專管居留地撰定掛合中のよし我商業者の店舖を開き居るもの七八居留者総体にて五十餘名あり追々増加の傾向ありと上海より天津及び牛莊仁川等への汽船は必ず立寄り往復の繼場になり居るを以て汽船の出入頻繁にして中々盛なり芝粟より天津迄汽船賃上等にて貳拾七圓なるも同じく上等にても清人の上等は七圓にして貳拾圓の差あり是れ全く支那人は旅行に夜具等携帶するを以て安きなり清國に入れば辛抱

粟



して支那風に旅行せば便利の點多しとす

領事館には田結領事大杉岩村二書記生あり余輩の上陸領事を訪問せし時は日曜日なりしも喜で面晤し有益なる談話に數時を費されたるは深く謝する處なり領事の談中兼て通商局よりも通知あり且つ天津領事よりも二百名餘の視察員一時に来る時は天津に於て適當の旅宿なきため豫め旅舎の用意を要するを以て一行芝罘へ着せば直に電報にて通知する様依頼越したるも僅に四五名位の人天津に向ふとすれば旅宿の心配もなく別に電報するの必要なき故其旨領事へ通知を頼むとの事にて之れを聞きし吾々は汗背を濕せり領事館を辭するに當り岩村氏は日曜日にて遊び居るからガイドをせんと辭するを止め余輩の先に立ち綿密に名所及市街を案内せられ我商業家には悉く紹介の勞を取られたるを以て視察上非常の便利を得たるは謝するの外なし

芝

罘

芝

罘

此地の物産は麥、粟、眞田、山藪、絹紬、豆、麥、桐等にして梨、葡萄、林檎等の果物は出來特に宜しくして有名なり麥、粟、眞田の多きは山東省内麥作を專とするを以て隨て此種の物品を産し品質又善良なり歐米各國及我國等へ輸出し年々百萬圓以上を産し昨年の如きは白にて百貳拾萬圓色付にて拾六萬圓の輸出を見たり我國へは重に下等品を輸入し再整の上香港等に輸出し相應の利益あるも猶ほ進て上等品をも再製の上輸出せば大に利益あらん價格は一捆二百四十把入一把六十碼昨年貳拾貳兩なりしも本年は麥作昨年比し幾分不良なりしを以て目下の景況一捆貳拾五兩位なり絹紬は此地の重要物産にして外國に輸出する事多く昨年の如きは參拾壹萬四百五拾圓の輸出あり本年も亦少なからず英國獨逸等には尤も多く日本へは約一割位の輸出なりとす獨逸は絹紬をして純白になすの法を發明し殆ど絹紬にあらざる如くなし之れに更紗形を置き婦人の衣服に適する一種の絹布を製し現今盛ん



に賣行くに至れりと若し我國に於ても絹紬をして純白たらしむるに至れば莫大の利益を得べし是等は當業者の大に研究すべき刻下の急務とす

桐は兩三年前より我國へ輸出し初られ昨年も拾萬圓以上の輸出を爲し中々盛大なり當時高橋洋行、金升洋行、宮田洋行等にて取扱居り此等の商店は大抵大阪東京等の支店にして内地と連絡を附け巧に營業せり最初は競争者なく買出し等も至極容易なりしを以て相應の利潤ありし由なるも現今は兎角我商業者間の競争にて自ら高く買入るゝ如き有様にて随分引合はざる事多しと我國の如く桐畑と云ふものなく只だ村落に此處彼處と繁茂し居るを買出す都合にて我商の内地に入らざる前は桐の使用を知らざる者多く隨て安價に仕入れ得しも今は然らずして一斤壹錢六厘迄騰貴し運賃掛て輸出する時は引合ざるに付き目下は何れも下駄の形に造り無駄なる運賃を除けり從來伐木せ

し事稀れなりしにや大木多く二抱位づゝは慥にあり火鉢などに造れば妙なり

### 芝罘の果物

芝罘の果物は有名なり地味尤も適する故にや梨、林檎等は大なること日本産の二倍にて産額亦多し一個壹錢は普通にして澤山買へば六七厘にて得らる可し我國にては一個安くも五六錢を拂はざる可からず芝罘に滞在中同地金升洋行の川上英吉氏外六名と、もに山腹なる梨畑に行きしに五六丁歩は悉く梨樹のみにして果實は鈴なりに枝は垂れ其見事なるには驚かざるものなし支那人五六名番小屋にあり命に従ひ幾個にても運び來れり其美味云ふべからず日本にては到底口にすべからざるなり此等の果物は随分我國に輸入せば面白からん現に仁川等へは輸出せり其他葡萄も亦同地の特有物産にして何れも歐米



人の培養に依り今日を致せしと云ふ現今佛國人某等は葡萄酒製造に着手せり又前記梨畑にて一行八人少なきは五個多きは十個を味ひ總數七十個は大丈夫舌頭に上りしが歸るに際し五拾錢を授せしに番人頓首再拜喜悅面に溢れたり以て如何に果物の安きやを想像するに足るべし漫遊中美味にして廉價なりしは此の右に出でしものなし

### 壹厘錢の價值

壹厘は壹厘に通用するは云ふ迄もなきことながら清國にては現今壹厘錢騰貴し八拾錢を壹圓に通用せり三井物産會社は既に一昨年頃より日本の壹厘錢を蒐集し盛に輸出せり芝罘等にも輸入多く運賃は何程も掛らざる故集むる方法宜しくば輸出は引合ふならん清國にて價格の騰貴せし原因は種々あるべしと雖も一壹厘錢は粗略に取扱ふを以て兎角紛失爲し易きこと(二)童に貧民界の通貨たる故其數多くを要

### 壹厘錢の價值

すること(三)鑄造費割合に高く地金の騰貴し鑄造と磨滅の平均せざること等は重なる原因なるべし我國にては各銀行厘位切捨を稱て壹厘錢の使途少く最早數年を出でずして壹厘錢を見る能はざるに至るべし然るに清國にては益々其必要を感ずるとせば輸出は其當を得たるものと云ふべし

### 在清邦人の親切

同行三名と芝罘の市街を散歩せんと領事館を出で地理方角も知らずして歩行しをりしに背後より君等は博愛丸にて來りしやと問ふものあり顧みれば本邦人なるも名は知らざるなり余は然りと答へ今市街を散歩し初めたるも不案内の爲め苦み居れりと言しに然らば僕案内の任に當らんと同行皆な喜び隨行す時恰も正午なりしを以て案内先生曰く宅に行くも直に諸君に日本食を供するを得ず寧ろ支那料理を

### 在清邦人の親切



饜應せんと導かれて芝罘唯一の料理店に入り鶯の丸揚げ其他珍味を夥しく食膳に排列し厚遇至らざるなし初めて姓名を問へば川上英吉君なり一昨年渡清し専ら桐の輸出に従事せらる支那酒に酔ひ談笑數刻料理の説明等を聞き味良さに感服す料理の善きは清國を以て世界第一と爲すと評するものあるは實に無理ならぬ事なり二時門を出で市中を散歩し山繭糸製造所及び有名なる呉服店雜貨屋を觀日暮川上氏の宅にて別れ船に歸る途上の奇遇一見舊知の如く馳走になるのみならず貴重なる半日を余輩の爲に費せし同氏の親切謝するに言葉なし。

### 我國人の渡清を望む

土地四百餘州人口四億万を有する老帝國は一葦海水を隔て横れり東洋問題は既に世界問題となれり我國民の此問題に對し研究すべき時

機は來れり清國政事家如何にして老帝國を保全すべきや各國の態度は如何我國の對清政策は那邊にあるか我政客の清國に遊ぶは今日の急務なるべし

我政府曩に大學教授服部宇之吉氏を漢學研究の爲め四箇年間留學せしめ去月又同學教授狩野直喜氏を三箇年間同一目的にて派遣せり清國への留學生は今回を以て嚆矢とす我國に於ける漢學近時大に衰退の徴ありと雖も併も日常缺く可からず道德又孔孟の教に重きを置ける今日漢學の母國たる清國に文學者の赴く寔に嘉すべき事とす孔孟の教は勿論小説其他研究すべき事元より少しとせず朝野の學者遊歴の餘暇ありや否や

藥劑は草根本皮を金城鐵壁と頼み居れば癒ゆるの病者も癒へず起つべきの病者も起つ能はざる等の事多かるべしと雖も是等は天の命數と稱し願みず貧困者は路傍に横臥し轉々病苦に煩悶すると雖も一人



## 我國人の清波を望む

の之れを救ふ者なきは憐むべき次第なり醫は仁術と云ふ如此病者西  
 憐の國にあり何ぞ行て救ふの遲きや我國々手社會其人なしとせず速  
 かに赴き憐れむべき病者を見舞へ一は斯道の研究にもならん  
 實業家の清國に於て爲すべきの事業多し鐵道鑛山等其他種々計畫す  
 べく實行すべき事山の如くあり工學者も工業家も先づ行き實地を踏  
 査せよ富源至る所にあり清國を需用地となし我國を供給地となし彼  
 我國の貿易をして益々増進せしむるを以て我商業家對清策の得たるも  
 のとせば彼れの場合を知るには先づ商工業者は渡航せざる可からず  
 之れ尤も必要とする所なり  
 之れを要するに我國學者と實業家とを問はず誰れでも彼れでも暇と  
 金とを有する者は是非一度は清國に赴く可し旅行の便利は既に前に  
 述べ置けり恐らくは昔日の伊勢参りよりは容易ならんか兎にも角に  
 も旅行者の多きは彼我兩國の爲め望む所なり敢て希望の一端を述べ

## 渡清を促す

## 我國人の清波を望む

## 遊清雜記終



明治三十三年四月二十日印刷  
明治三十三年四月廿五日發行

著作兼發行者 石 黒 劔 次 郎

京都市上京區間之町通二條  
上ル夷町二十二番戶

印刷者 太 田 利 三 郎

京都市上京區東三本木丸太  
町上ル上之町十四番戶

印刷所 合 資 商 報 會 社

京都市上京區三條通東洞院  
東入發華院前之町十七番戶

8/37



82  
207



27



82

207

026705-000-3

82-207

遊清雜記

石黒 劔次郎/著

M33

ADD-0401





35.6.15